



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2021～2022年度 RI会長 シェカール・メータ
RIテーマ 奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

クラブテーマ「会員の健康と地域リーダーの育成、
そしてロータリーの基本、規律を大切に」

会長 米山晴敏 幹事 仲原実圭

特別会報 (7) 2022. 3. 4(金)

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 米山晴敏君

こんにちは。

FAXでお知らせ致しましたが、次週3月11日の例会を開催します。

まん防止等重点措置中なので、色々な意見があると思いますが、理事会決定事項の発表や活動している委員会から報告と予定を発表する場が必要との意見で開催することと致しました。

例会再開にあたり感染防止対策をしっかりとやります、且つ最小限の時間で終了する様に致します。

又個々の理由により出席出来ない場合は特例として翌週の週報を見る事で出席扱いとすることになりましたので無理はなさらないで下さい。

生の委員会発表を楽しく聞いて、友情を深めて頂くとありがたいと思います。

スマイルボックス

山口辰哉君:少しづつ暖かくなってきました。でもコロナは収まりません。年をとると友達が少なくなり話すことが減ります、例会でもないと徐々にぼけていきます。

服部光弥君:ありがとうございます！特別会報と併せて「入会記念日」のプレゼントをいただきました。3月第2例会より例会がスタートするというので、みなさまにお会い出来るのが楽しみです。

野村諒子君:ウクライナ情勢のニュースを見ているだけで、安全な日本にいて何も力になれないもどかしさを感じています。経済制裁の影響がこれから出てくると思いますが、せめてそのことへの理解と協力はしたいと思います。

原兄多君:入会記念日のプレゼントが届きました。入会して早7年となりました。ありがとうございます。

4年連続でロータリー財団に最高の格付け評価



ロータリー財団はこの度、米国の慈善団体の格付けを行う独立機関であるチャリティ・ナビゲーターから14年連続で最高の四つ星評価を受けました。

財団が慈善部門のベストプラクティスに沿って財務的に効率の高い方法で使命を遂行し、健全な財務およびアカウントビリティ(説明責任)と透明性へのコミットメントを身をもって示していることが、今回の高評価につながりました。

「高い評価をいただき、全対象団体の上位1%に入れたことを光榮に思います」と、ロータリー財団のジョン・ジャーム管理委員長は述べます。「ロータリー財団をご支援くださる方々は、ご寄付が地域社会と世界に永く永いインパクトをもたらすために活用されるという誇りを持つことができます」

この評価は、寄付の活用、プログラムとサービスの維持、ガバナンスと情報開示といった基準を用いて行われたものです。



卓話

国際奉仕委員会 小島 真君

本年度国際奉仕委員会のメイン事業である、カンボジア王国への井戸建設他整備事業の中間報告をさせていただきます。

この事業は、2020年当クラブがシェムリアップ州リエンポン小学校に地下50mの井戸を掘り、衛生的に安心出来る公共の水道を設置したことより始まりました。その折リエンポン村が属する郡の教育局を通じて、シェムリアップ州の教育省からもお礼の言葉をいただき、現地関係者、子供たちにも喜んでいただけました。

そこで今年度も継続事業として、井戸建設の候補地を現地NGO、シェムリアップ州教育省等と協議している中、スワイリー郡のオータコ小学校(分校)が候補地に上がりました。この小学校は1年生～2年生計43人教師3人の学校です。3年生からは村から9km離れた本校に通わなければならないため辞めてしまう子供も多いとのこと。この地区は支援も未だ届いておらず、小学校も村人がお金を出し合い建設したとのこと。村の保護者は教育の重要性を理解しているが、小学校には衛生的な水もなく、電気も届いてなく、教育環境が整っていません。衛生的で安心出来る飲み水が確保できれば生徒の数も増えることが期待でき、村人達も生活用水として使えるようになります。また将来的には9km先まで通っている3年生以上も通えるような校舎建設も考えているとのこと。

これらを踏まえて、このオータコ小学校(分校)に井戸を建設することと決め、現在作業に入ったところ。しっかりと完成させ現地関係者、子供たちの生活環境の向上により人生を豊かになっていただけるよう継続いたします。



ROTARY NEWS

ロータリー財団がウクライナ地域での直接的な人道支援の窓口を設置

深刻化するウクライナでの人道的危機への対応として、ロータリー財団は現在、ロータリー地区が実施している救援活動を支える資金を世界中の人が寄付することのできる正式な窓口として、災害救援基金を指定しました。これに伴い、ロータリー財団は以下を承認しました：

現在から2022年6月30日まで、ウクライナと国境を接する指定ロータリー地区とウクライナ国内のロータリー地区は、災害救援基金から各地区5万ドルまでの補助金を申請できます。迅速な手続きが行われるこれらの補助金は、水、食料、シェルター、医療品、衣服といった救援物資を含め、この危機による難民や被災者の支援に利用できます。

上記の期間、難民やその他の被災者への支援を希望する、影響を受けたほかのロータリー地区も、災害救援基金から25,000ドルの補助金を申請することができます。

現在から2022年4月30日まで、ロータリー地区は未配分の地区財団活動資金(DDF)を災害救援基金に充て、ウクライナと関連する人道的補助金を支援することができます。ロータリー財団を通じた支援は災害救援基金が主な窓口となりますが、ロータリークラブとローターアクトクラブもウクライナでの人道的危機に対して独自の支援を行うことが奨励されています。

災害救援基金を通じた支援に加え、財団はパートナー団体や地域リーダーと協力し、増加する人道的ニーズへの効果的なソリューションを模索しています。

国連難民高等弁務官事務所(米国)と協議し、ウクライナや近隣諸国で行き場のない人びとのニーズに対応するための準備を進めています。

災害救援におけるプロジェクトパートナーであるシェルターボックスは、東欧のロータリー会員と連絡を取り、一時的な住居やほかの必要物資の提供方法について検討しています。

「難民、強制退去者、移住者のためのロータリー行動グループ(The Rotary Action Group for Refugees, Forced Displacement, and Migration)」は、この危機への対応としてグループのリソースを集結させています。

すでに200万人以上がウクライナから避難しており、緊急支援が早急に必要となっています。国連は、避難する人の数が500万人に上る可能性があるとして推測しています。ヨーロッパや世界のロータリークラブが救援活動に乗り出しており、中には避難者を支援するために現地で活動しているクラブもあります。

ロータリーでは、ウクライナと近隣諸国での状況を引き続き注視していきます。クラブによる支援方法や、ロータリー会員にできること、現地の人びとへの影響等に関する最新情報は、ロータリーのソーシャルメディアをフォローしてご覧ください。

ご質問はロータリーお問い合わせセンターまでご連絡ください(rotarysupportcenter@rotary.org)。